

成人女性を対象とした生活状況に関する調査結果（概要版）

調査目的

札幌市では、第5次男女共同参画さっぽろプランにおいて、基本目標「誰誰もが尊厳と誇りをもって安心して生きられる社会の実現」の基本的方向として「困難や不安を抱える女性の支援」を掲げ、支援事業を実施している。

市内女性の有業率の低さや、昨今の物価高等の影響により、経済的困窮をはじめとする様々な困難を抱えている女性が存在していると推定される。

令和6年4月に施行された困難な問題を抱える女性への支援に関する法律第4条では、国及び地方公共団体は、基本理念にのっとり、困難な問題を抱える女性への支援のために必要な施策を講ずる責務を有すると定められた。

今後、単身世帯の増加が見込まれる中、市内女性の生活状況を把握し、より効果的な女性支援施策を検討するため、調査を実施した。

調査概要

調査実施期間：令和6年10月30日（水）～令和6年11月19日（火）

調査対象者：札幌市在住の18歳～74歳の女性 4,000人

抽出方法：無作為抽出（住民基本台帳から対象者を抽出）

配布方法：郵送による調査票の配布

回収方法：郵送、ウェブフォームによる回答

回答者数：1,322人（回収率33.1%）

内訳：郵送回答906人 ウェブフォーム416人

調査項目：1 回答者の属性

2 現在の生活状況について

3 経済状況について

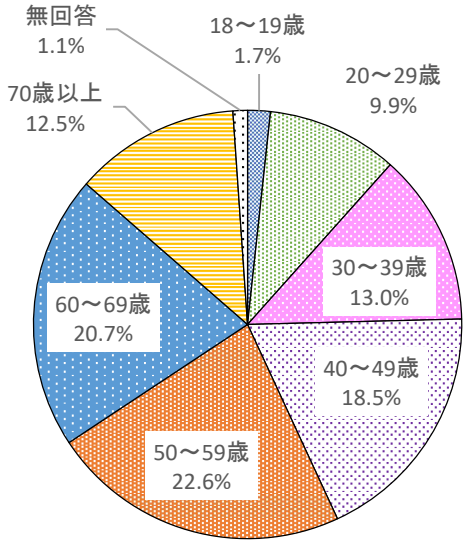
4 抱えている悩みについて

5 女性に対するサポートについて

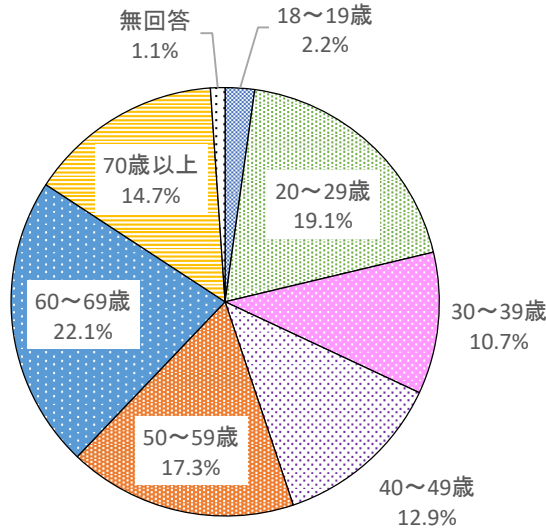
回答者の属性

1 回答者の年齢

回答者全体では、50代が最も多く22.6%、次いで60代が20.7%となっており、40代以上の回答者が全体の74.3%を占める。うち単身者は、60代が22.1%、次いで20代が19.1%となっている。



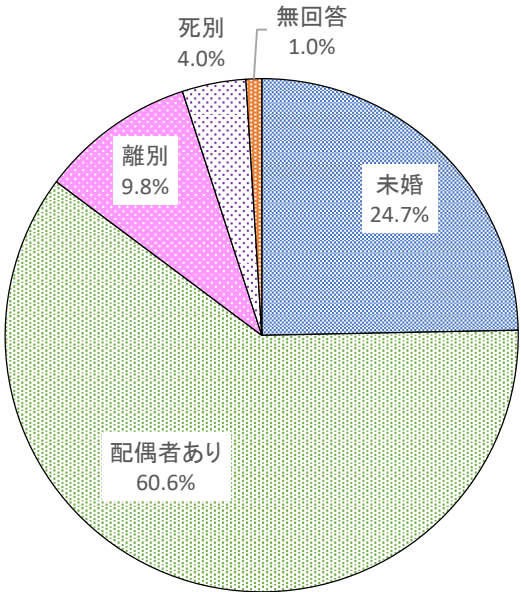
回答者全体（N=1,322）



うち単身者（N=272）

2 回答者婚姻状況

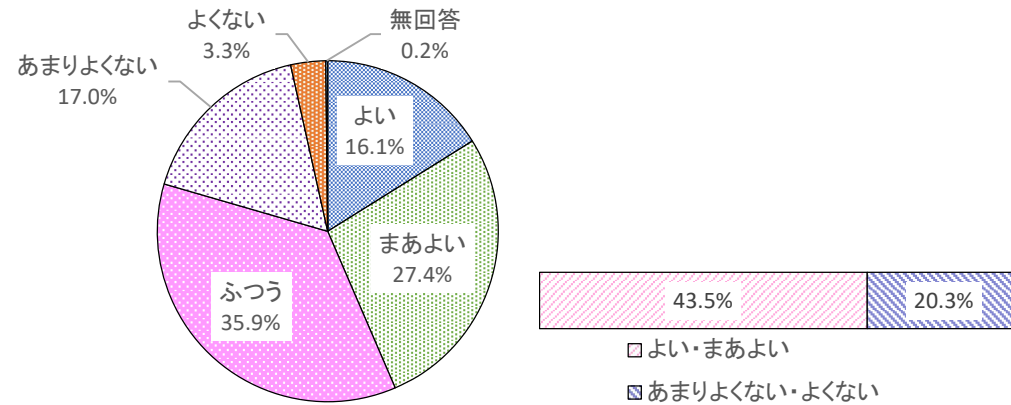
「配偶者あり」が60.6%、次いで「未婚」が24.7%となっている。



現在の生活状況について

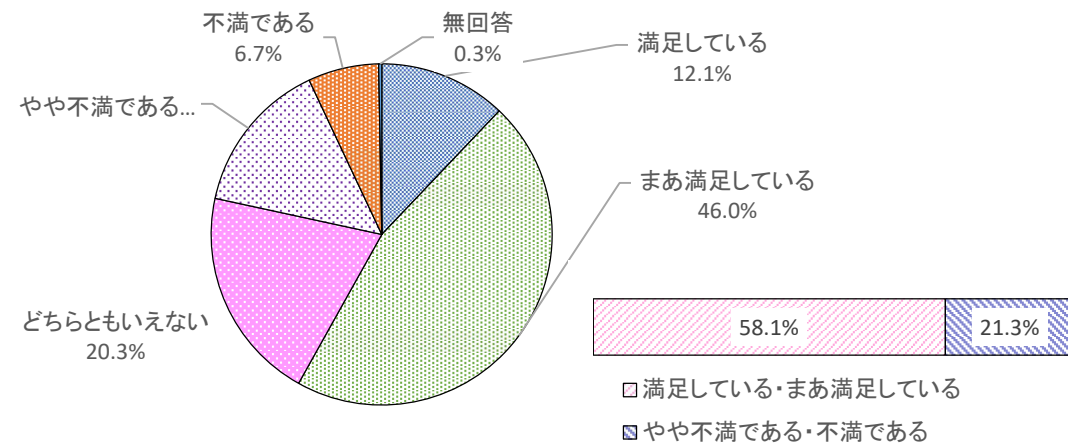
1 回答者の心身の健康状態

「ふつう」が35.9%と最も多いが、全体の43.5%が「よい・まあよい」と回答し、全体の20.3%が「あまりよくない・よくない」と回答した。



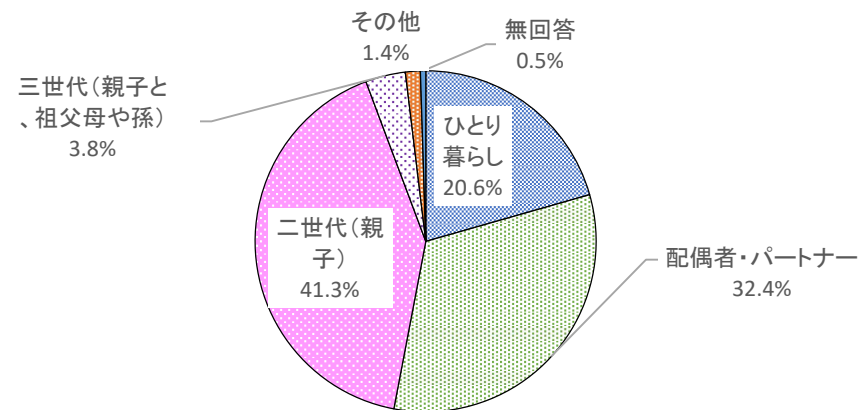
2 回答者の生活の満足度

全体の58.1%が「満足している・まあ満足している」と回答した。



3 回答者の家族構成

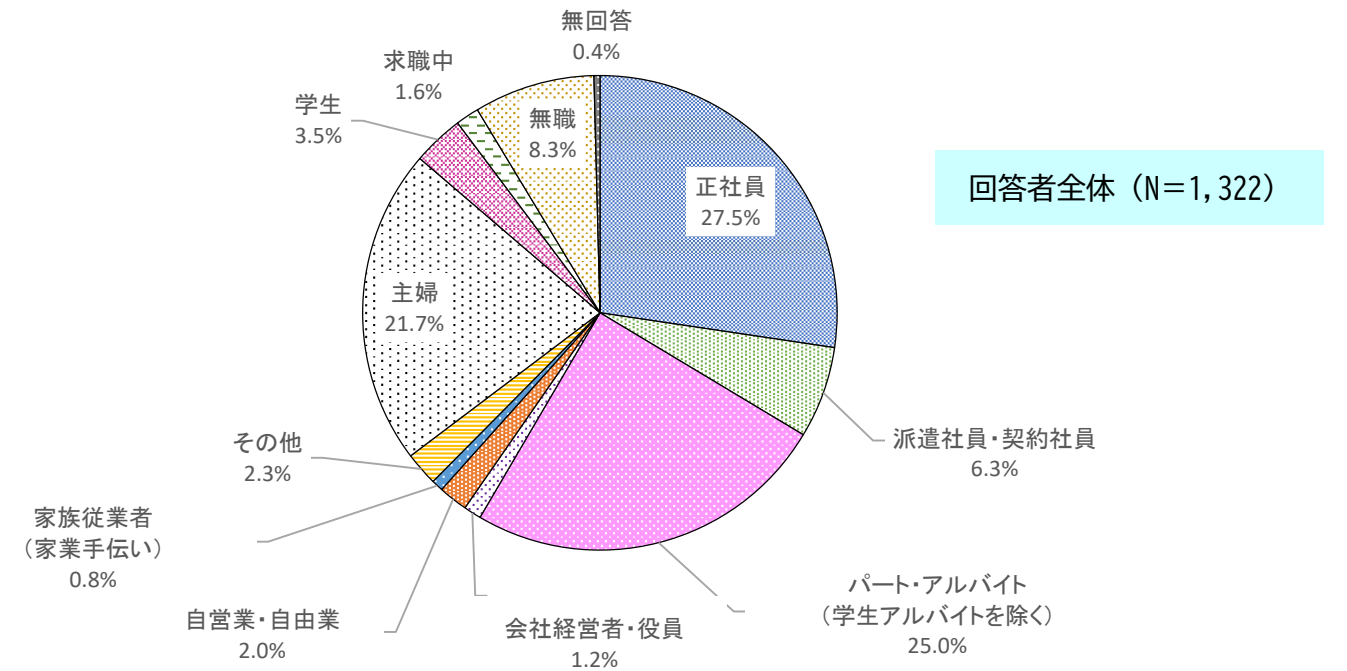
「二世代（親子）」が41.3%と最も多く、次いで、「配偶者・パートナー」が32.4%、「ひとり暮らし」が20.6%となっている。



経済状況について

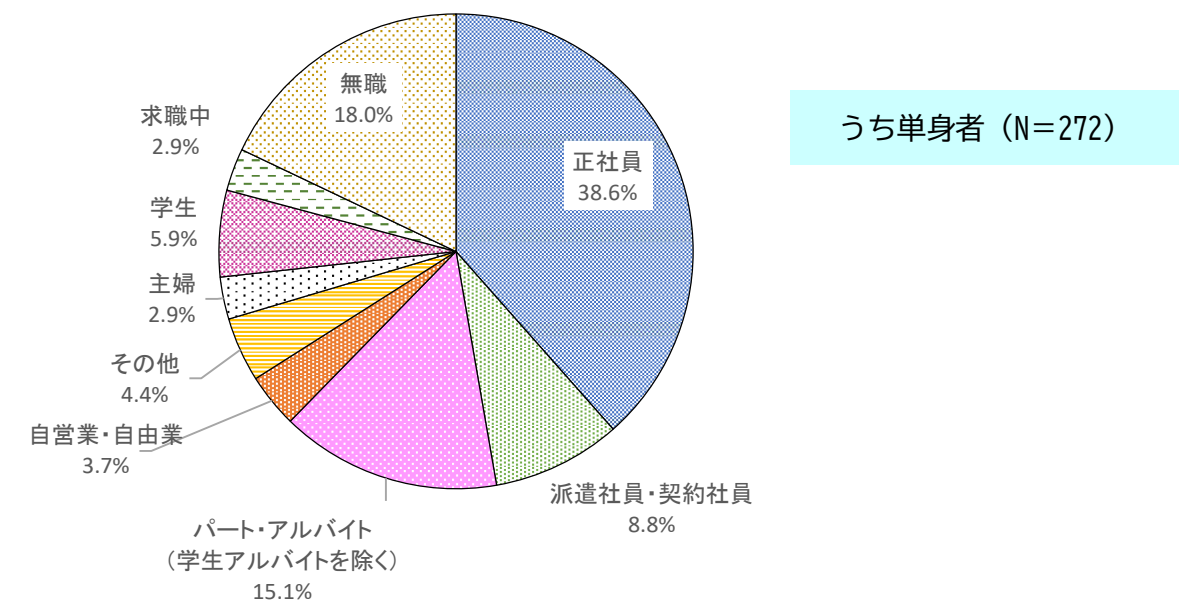
1 回答者の職業（回答者全体）

回答者全体では、正社員が「27.5%」が最も多く、次いで「パート・アルバイト（学生アルバイトを除く）」が25.0%、「主婦」が21.7%となっている。

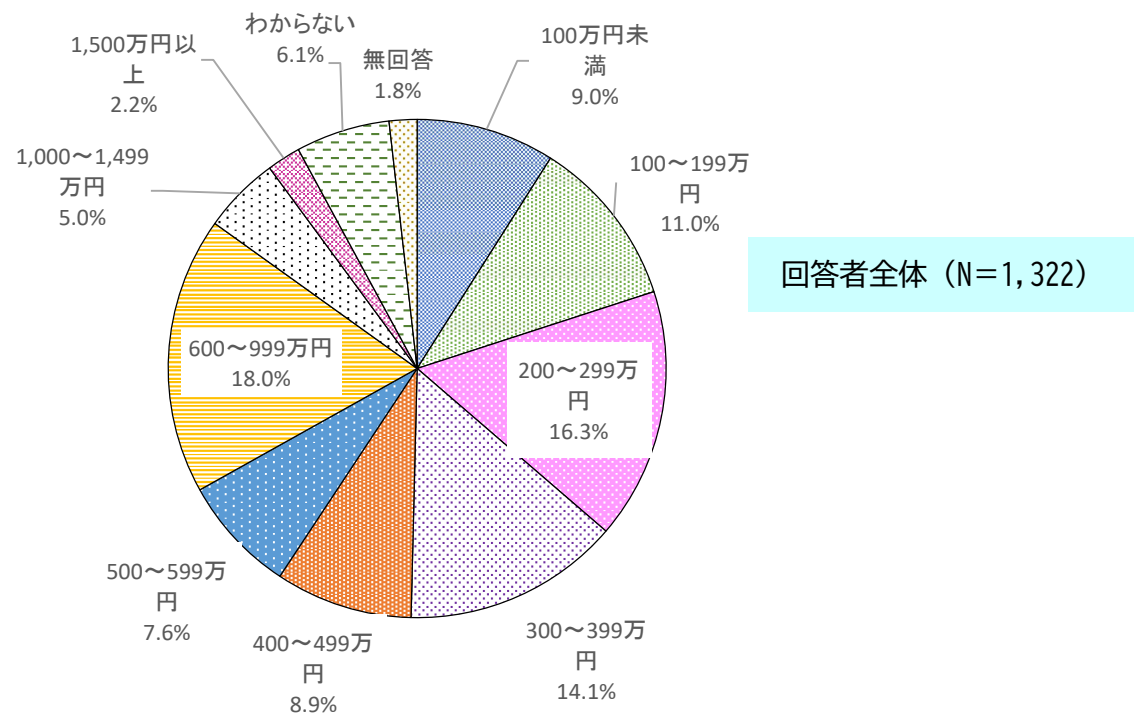


2 単身者の職業

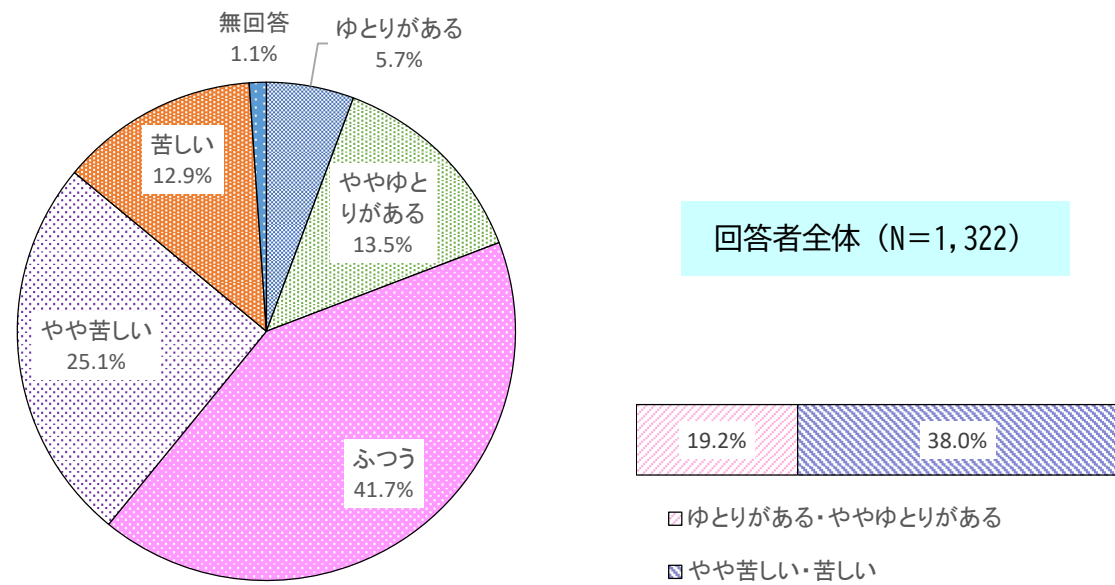
そのうち単身者の職業は、正社員が「38.6%」が最も多く、次いで、「無職」が18.0%、「パート・アルバイト（学生アルバイトを除く）」が15.1%となっている。



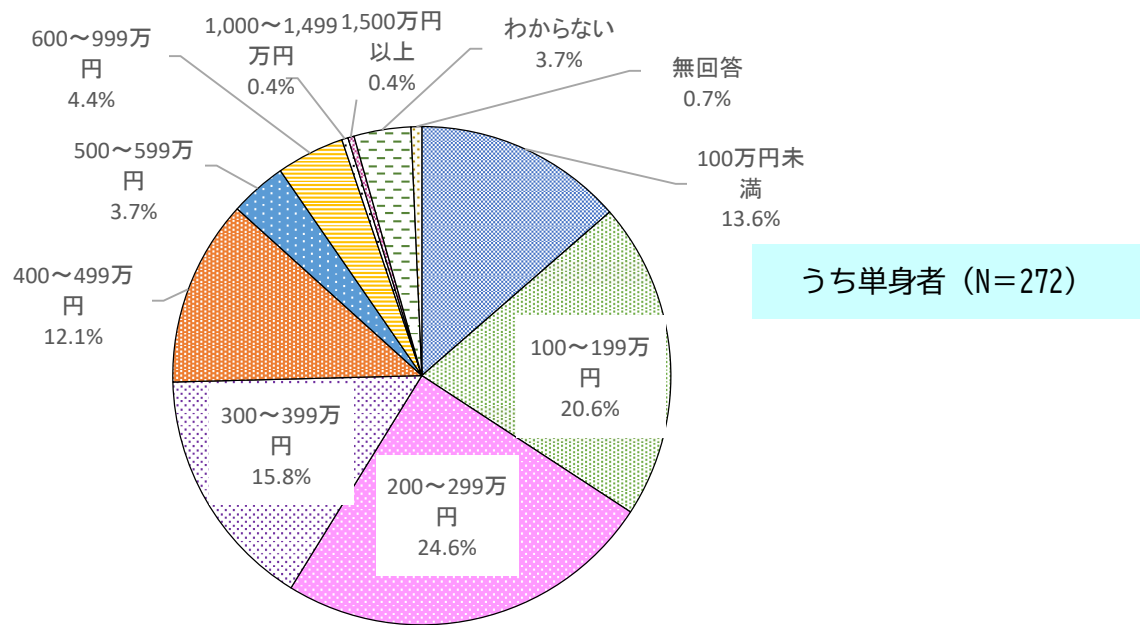
3 回答者世帯（全体）の年間年収【税・社会保険料込み】
 回答者全体では、「600～999 万円」が 18.0%と最も多く、次いで「200～299 万円」が 16.3%となっている。



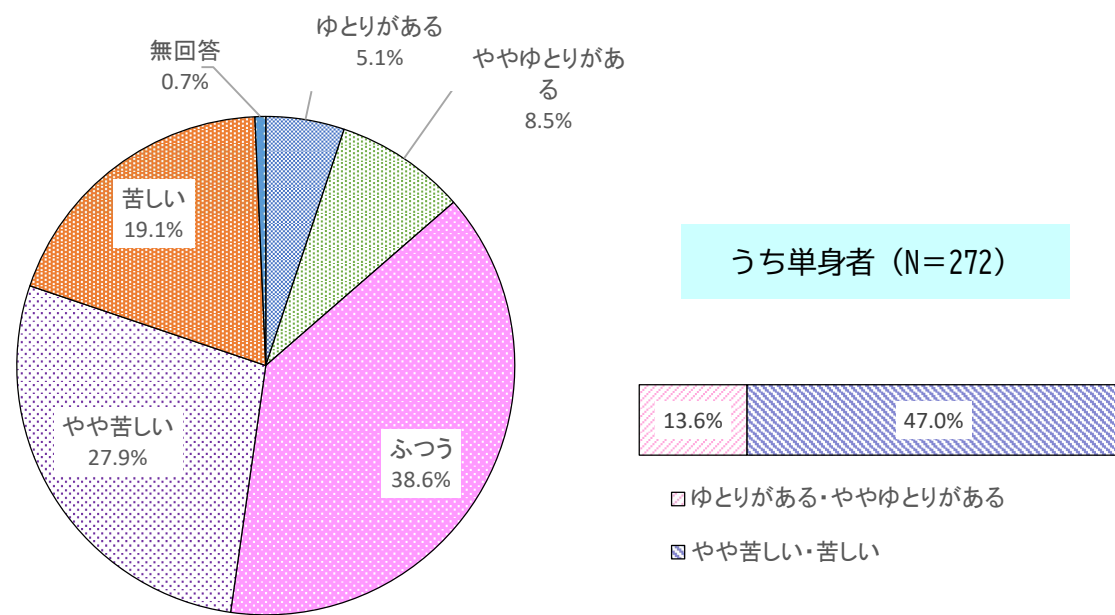
5 経済的な暮らし向きについて（回答者全体）
 回答者全体では、「ふつう」が 41.7%、次いで「やや苦しい」が 25.1%となっている。全体の 38.0%が「やや苦しい・苦しい」と回答している。



4 単身者世帯の年間年収【税・社会保険料込み】
 単身者では、「200～299 万円」が 24.6%と最も多く、次いで「100～199 万円」が 20.6%、「300～399 万円」が 15.8%となっており、単身者世帯のうち 74.6%が年収 400 万円未満となっている。

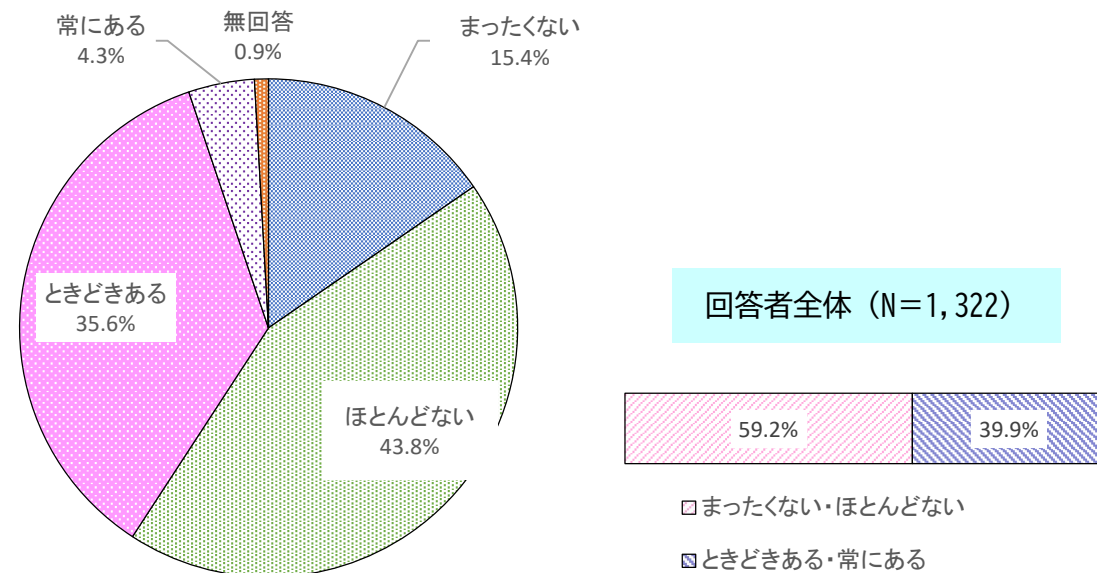


6 経済的な暮らし向きについて（単身者）
 単身者では、「ふつう」が 38.6%、次いで「やや苦しい」が 27.9%となっている。単身者全体の 47.0%が「やや苦しい・苦しい」と回答している。

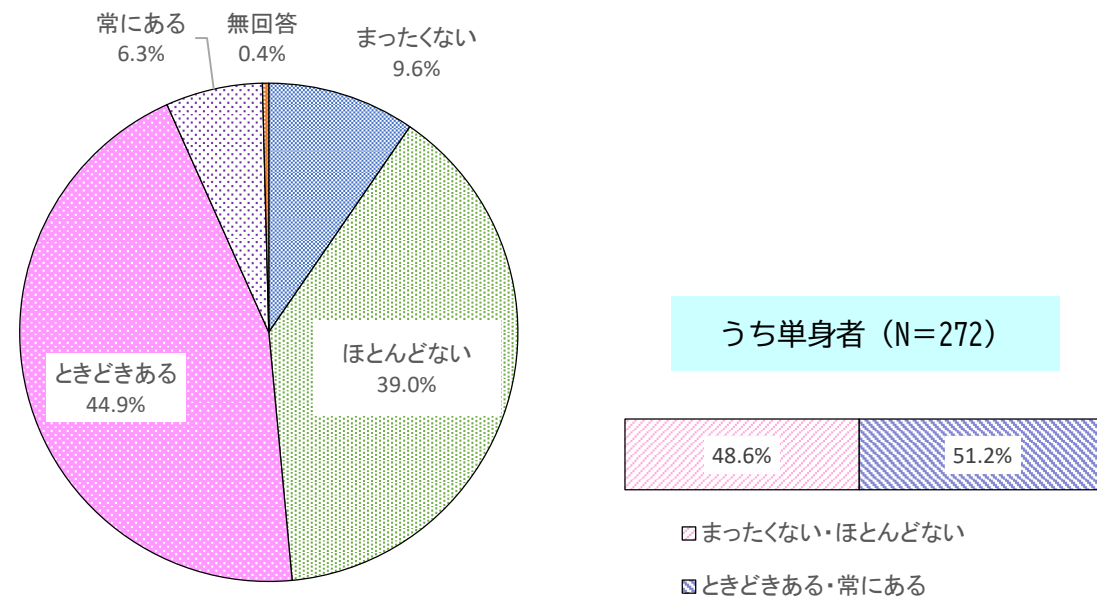


抱えている悩みについて

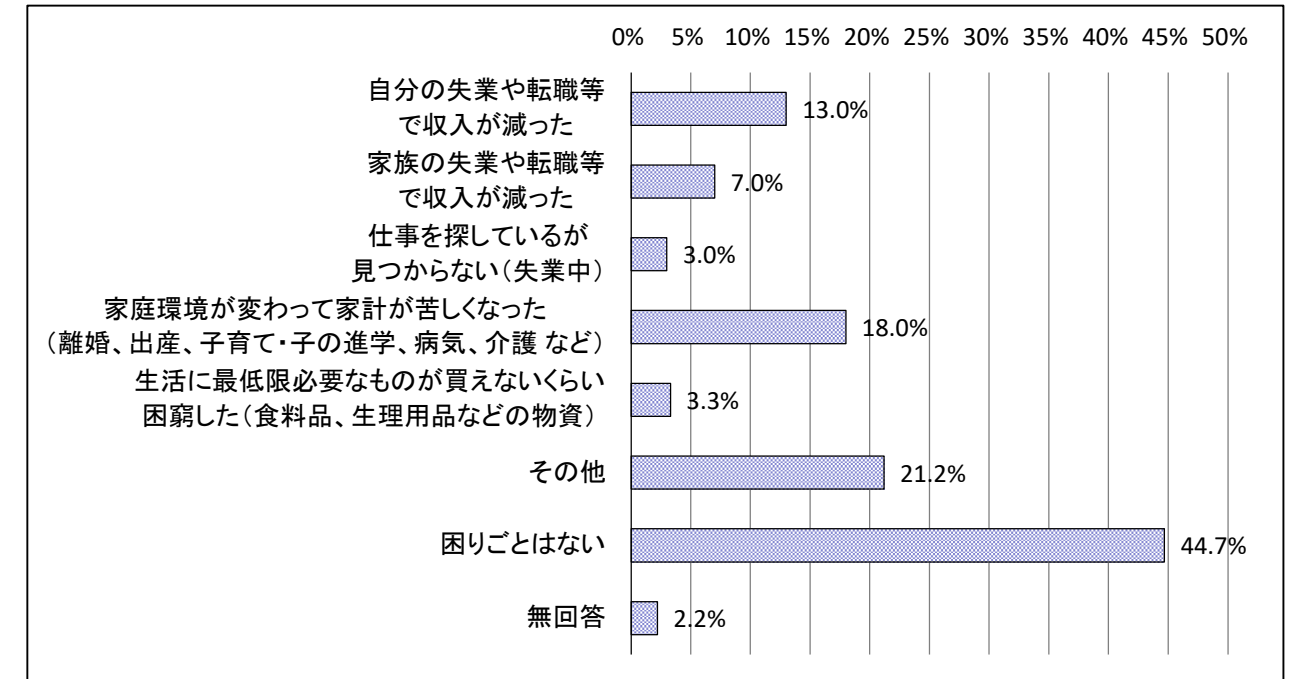
- 1 周りに取り残されていると感じたり、孤立していると感じること(回答者全体)
 回答者全体では、「ほとんどない」が43.8%、次いで「時々ある」が35.6%と回答。回答者全体の59.2%が「まったくない・ほとんどない」と回答している。



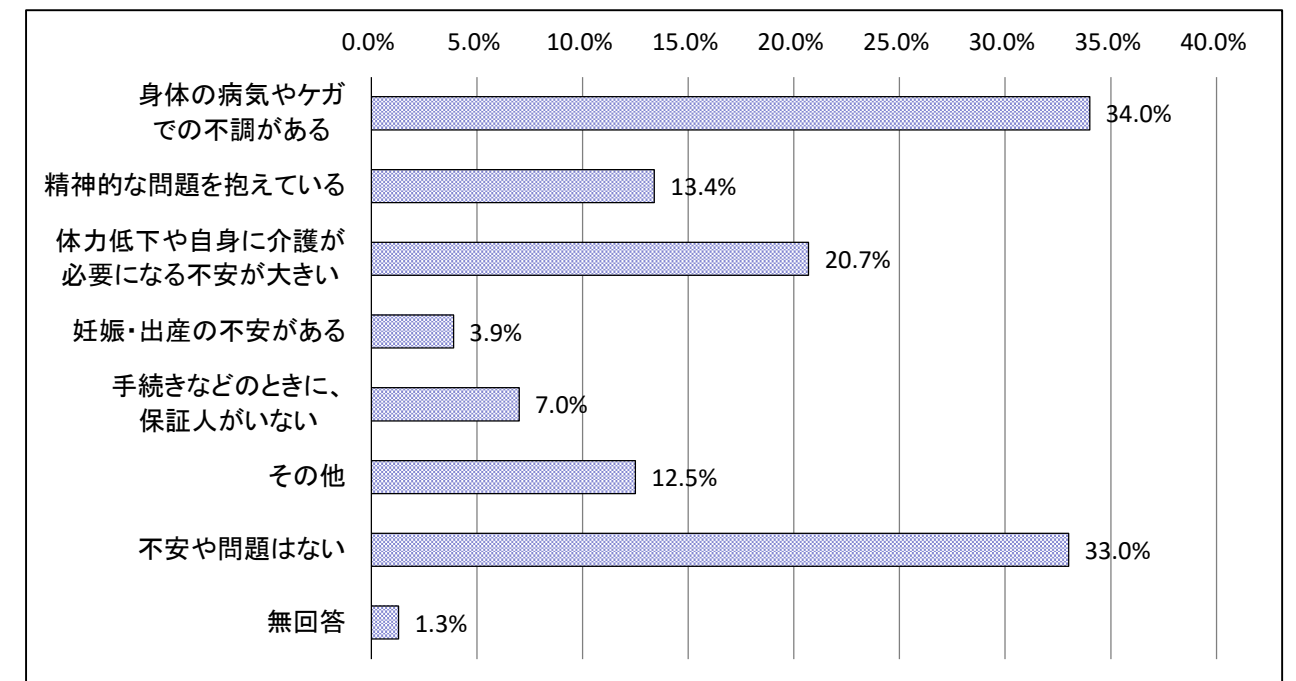
- 2 周りに取り残されていると感じたり、孤立していると感じること(単身者)
 単身者では、「ときどきある」が44.9%、「ほとんどない」が39.0%と回答。回答者全体の51.2%が「ときどきある・常にある」と回答している。



- 3 経済的な困りごと(回答者全体)
 「困りごとはない」が44.7%と最も多く、次いで「その他」が21.2%、「家庭環境が変わって家計が苦しくなった」が18.0%となった。

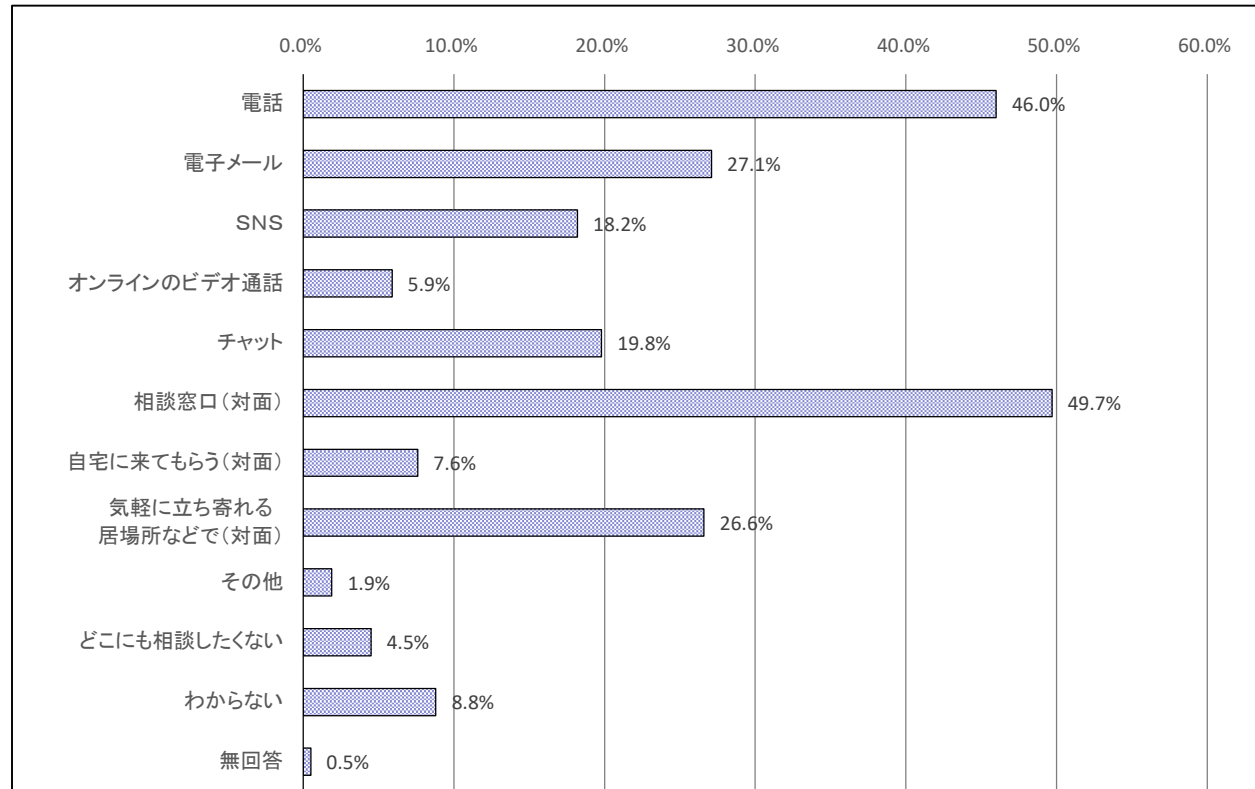


- 4 健康に関わる不安や問題
 「身体の病気やケガでの不調がある」が最も多く34.0%、次いで「不安や問題はない」が33.0%となっている。



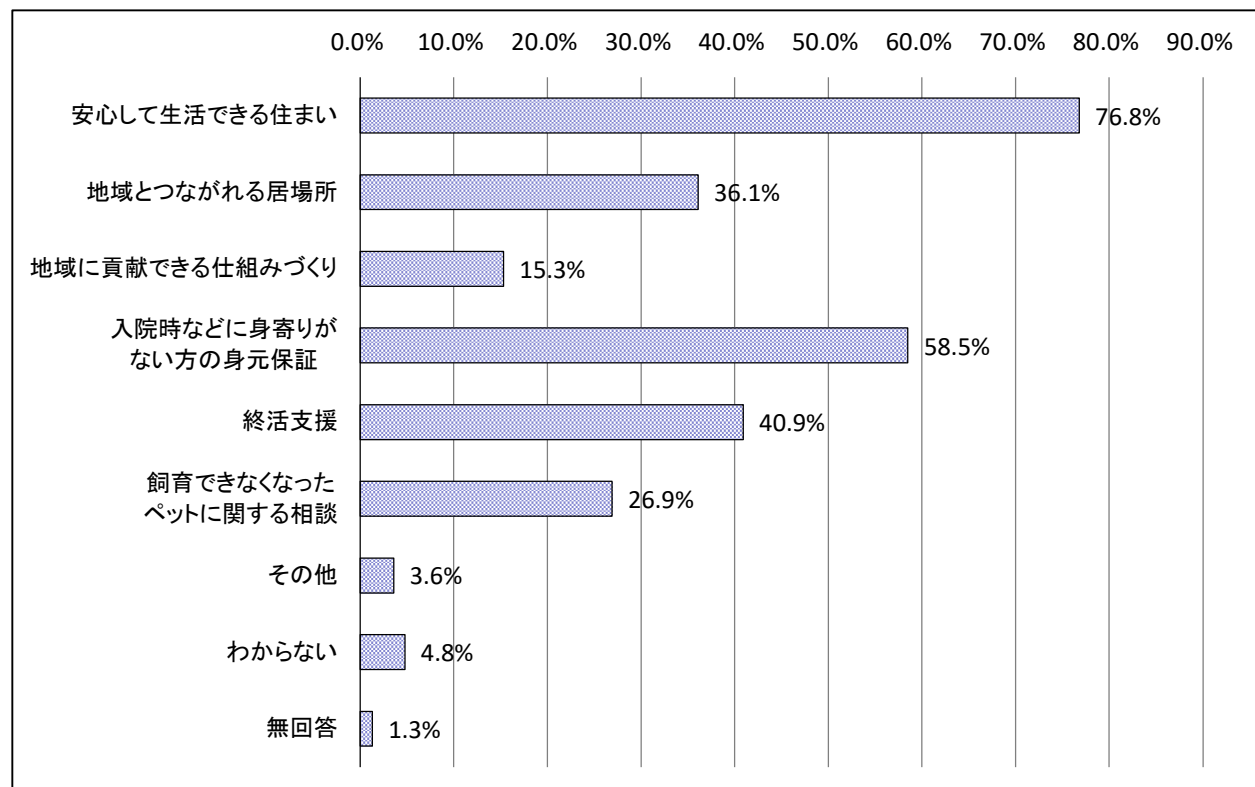
調査分析

- 5 公的機関や民間団体に相談する際に希望する窓口の形態（複数回答）
相談窓口（対面）が49.7%と最も多く、次いで電話46.0%となった。



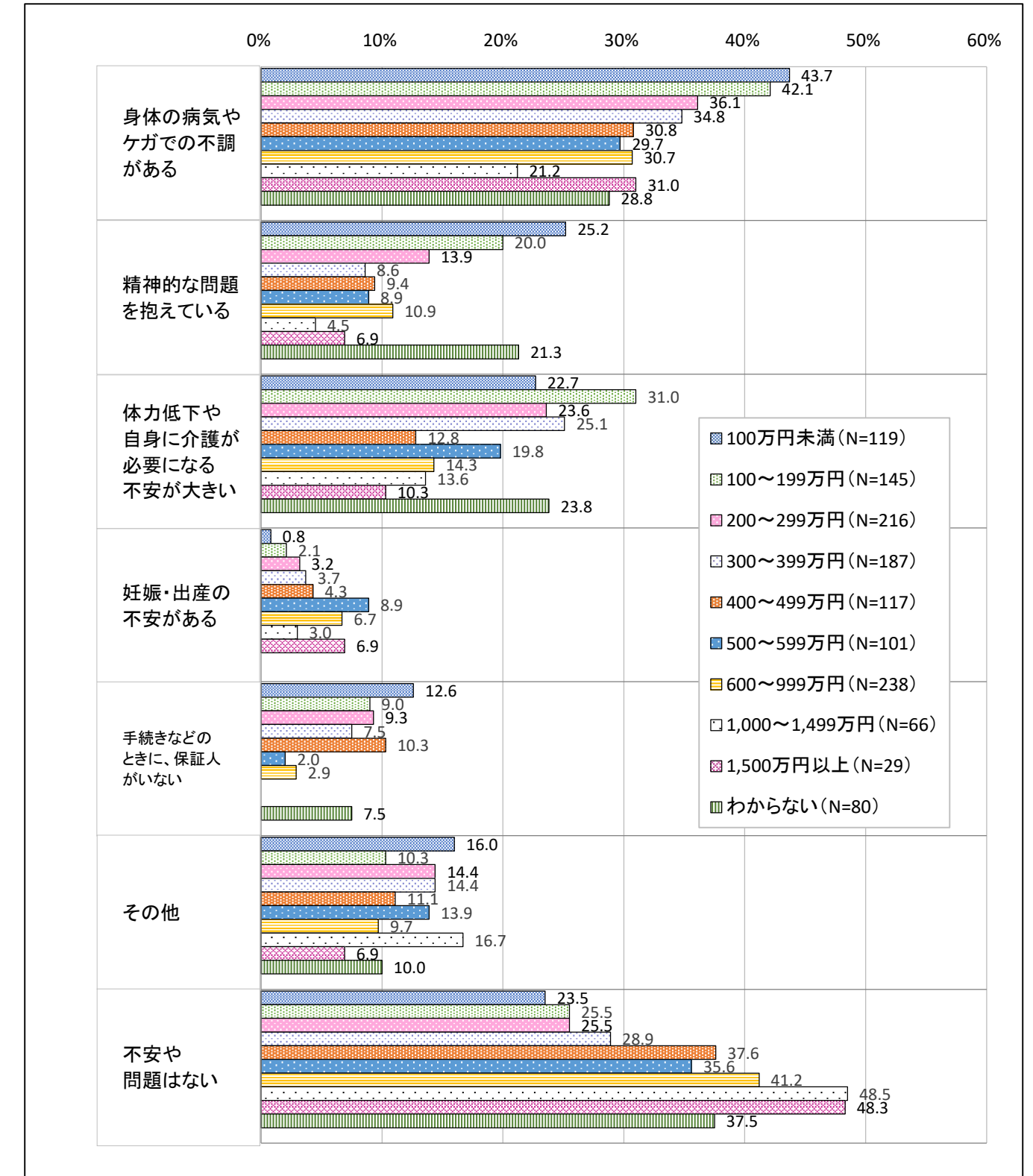
女性に対するサポートについて

- 1 ひとり暮らしの女性の困りごとに必要と思われる環境や支援



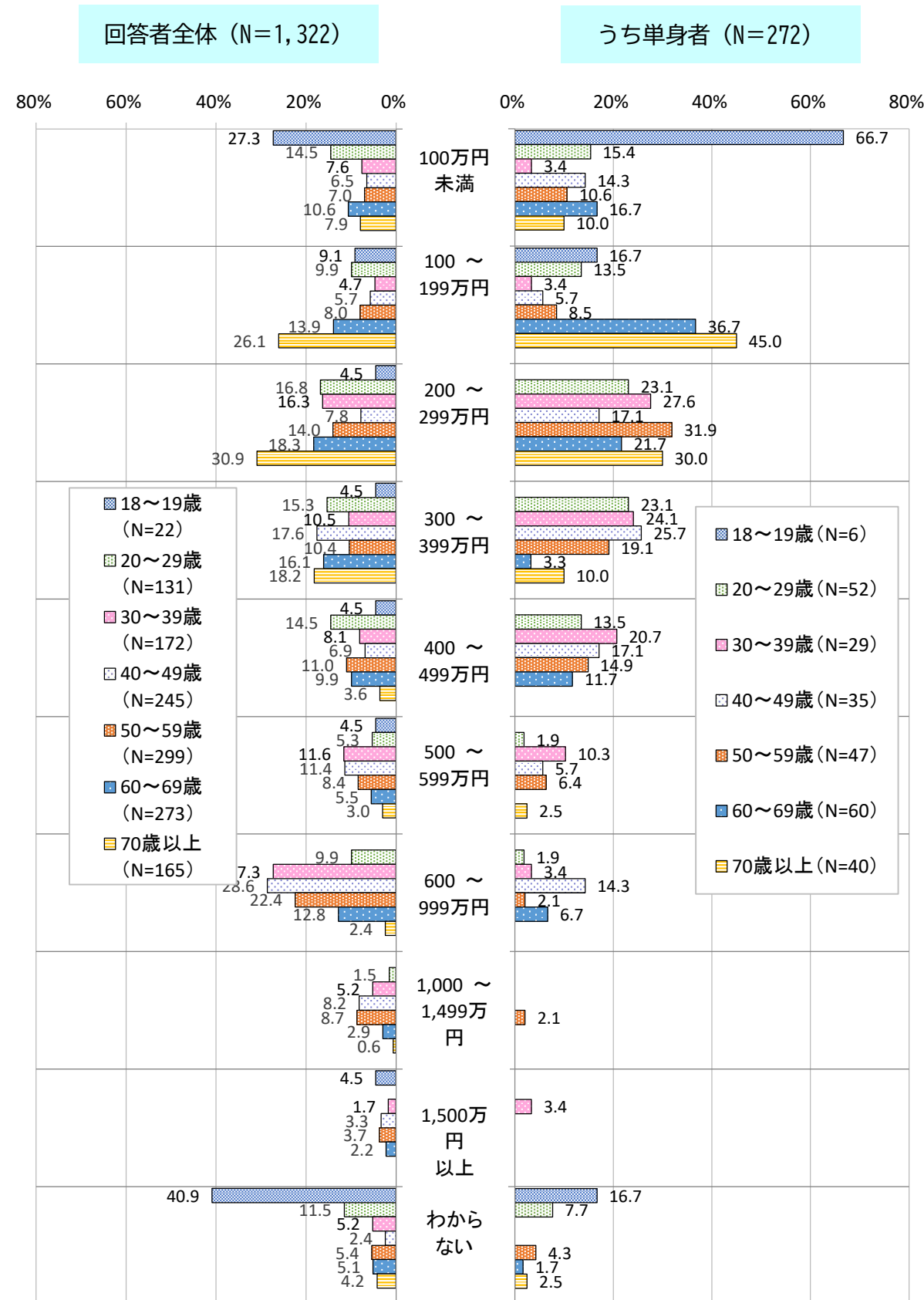
- 1 健康に関わる不安や問題と回答者世帯の年間収入との関係

年間収入が低くなるほど、「身体の病気やケガでの不調がある」、「精神的な問題抱えている」、「体力低下や自身に介護が必要になる不安が大きい」の回答割合が高くなっている。



2 回答者世帯の年間収入と回答者の年齢の関係

単身者については、年収 400 万円未満が多く、70 代単身者の 85%、60 代単身者の 75.1%が年収 300 万円未満となっている。



3 悩みや困りごとの解決のために必要と思われる環境や支援

年齢層が低くなるほど「安心できる居場所」「経済的補助」の回答割合が高く、年齢が高くなるほど「医療的ケア」の回答割合が高くなる。

「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口」「利用できる支援制度の情報提供」については、どの年齢層も回答割合が高い。

